

党はどこにあるか ——どこになければならないか！——

善良なゴロソフはここで、党はどこにあるかという、もっとも興味ある、またもっとも重要な問題を提起して不愉快な目にあっている。そして、グリ・ゴロソフ自身に考える能力がないにしても、すべての労働者はこれについて考えてきたし、また考えている。

党は、政治生活に参加している自覚したマルクス主義的労働者の大多数がいるところにある。

グリ・ゴロソフがヒステリーをおこすほど立腹しているのは、この単純な真理を反駁できない自分の無力さを感じているからこそである。

第四国会選挙も、『プラウダ』の創刊と成長の歴史も、金属労働組合の指導部の選挙も、保険闘争も、六名の労働者議員に有利な労働者の諸決議も——すべてこれらは、党が六人組のがわにあり、彼らの方針のがわにあることを証明した。彼らのスローガンは、うけいれられ、労働運動のすべての分野で労働者の大衆行動によって点検されている。

立腹したゴロソフが立腹しているのは、選挙でも、労働組合でも、日刊新聞をはじめ仕事でも、保険闘争でも、マルクス主義者が解党派に勝利したという正確な、明白な、議論の余地のない事実を反駁するのに無力であるからこそである。

すべての事実がその意に反している人々には、「立腹」とヒステリー以外になにもものこっていないのである。

党は、もっとも重要な諸問題に完全な、系統的な、正確な答をあたえる党の決議のまわりに、労働者の大多数が結集したところにある。党は、これらの決議の統一性と、それを誠実に実行しようとする単一の意志とによって自覚した労働者の大多数が統合されているところにある。

これらの決議、労働者階級のこの意志をやぶろうとするチヘイゼ（と七人組）の権利を擁護することによって、グリ・ゴロソフは、すべての解党主義者と同様に、無党派性のためにマルクス主義組織を破壊しているのである。

労働者が今後も、**党の周囲にいる**という、七人組の立場に反対して**自分たちの六議員の立場を支持する**だろうということは、疑いない。

第19巻P473~474『拙劣な行為の拙劣な擁護』

『ザ・プラウドゥ』第12号、1913年10月17日

ポイント

党はどこにあるか、党は何のためにあるのか？！

党は、政治生活に参加している自覚したマルクス主義的労働者の大多数がいるところにある。党は、もっとも重要な諸問題に完全な、系統的な、正確な答をあたえる党の決議のまわりに、労働者の大多数が結集したところにある。党は、これらの決議の統一性と、それを誠実に実行しようとする単一の意志とによって自覚した労働者の大多数が統合されているところにある。

このような党を作らなければならない。そうすれば未来はわれわれのものである。